

- 1 単元名 作者になりかわってあとがきを書こう ―ウラ話を明らかにせよ！―
教材名 スズメは本当に減っているか（東京書籍 1年）

2 単元の目標

- 文章と図表との関連を捉えながら，説明の文章を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることができる。 (読むこと)
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分のものの見方や考え方を広くすることができる。 (読むこと)
- 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ，文脈上の意味を考えることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

実態調査（調査人数 男*名 女*名 計*名）平成*年*月*日実施

- 1 事実と意見，感想を読み分ける能力に関する調査（小学校第5，6学年既習事項）
正答・・・*名 誤答・・・*名
- 2 中心的な部分と付加的な部分を読み分ける能力に関する調査（中学校第1学年1学期既習事項）
正答・・・*名 誤答・・・*名
- 3 目的や必要に応じて要約する能力に関する調査（本単元指導事項）
正答・・・*名 誤答・・・*名
- 4 目的や意図に応じて要旨をとらえる能力に関する調査（本単元指導事項）
正答・・・*名 誤答・・・*名

本学級で実施した実態調査の「1」から，小学校での指導事項を定着させていない生徒が多いことが分かった。事実と意見の読み分けは中学校の指導事項でもあるので，繰り返し指導していく必要がある。

実態調査「2」に関する能力は半数以上が定着していることが分かった。このままに文章を捉える能力を活用して，要約したり要旨を捉えたりする能力の伸長につなげていきたい。

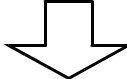
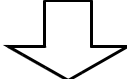
以上のことから説明的文章の解釈に関する能力について，本単元で設定する「満足する生徒の姿」となるには，手立てを充実させなければならない学習集団であると考えます。

「読むこと」を身に付けるための系統図

生きる（小6）
○ 筆者の考えたことや思いを叙述した優れた表現について自分の考えをまとめる。

自然に学ぶ暮らし（小6）
○ 事実と感想，意見との関係を押さえ，自分の考えを明確にしながらか読む。

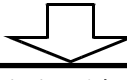
海の命（小6）
○ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉え，優れた叙述について自分の考えをまとめる。



詩の心―発見の喜び（中1）
○ 言葉の意味を的確に捉え，音読し，詩を鑑賞して自分のものの見方を広げる。

オオカミを見る目（中1）
○ 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け，要約をし，文章の構成や展開，表現の特徴について自分の考えをもつ。

飛べ かもめ（中1）
○ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容を理解する。



スズメは本当に減っているか（中1）
○ 目的や意図に応じて，要約したり要旨を捉えたりして，文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分のものの見方や考え方を広げる。

(2) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説国語編「C読むこと」の指導事項(1)「イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」を受けて設定した。前年度までに、生徒たちは「自然に学ぶ暮らし」という教材において、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだりする学習を行っている。それを受けて今年度はこれまでに、段落の役割や段落相互の関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る学習を行った。

本教材は筆者が検証した内容を記録した文章であり、筆者は必要に応じて新たな検証を加えていく論の進め方を行っている。ここでは筆者自身が真相を明らかにしようとして新たな問いを見付け出すという科学に対する心構えそのものが文章の構成となっている。記された三つの調査は並列ではなく、時系列で構成されており、中学生はこの形式の文章になじみが浅い。したがって、読者の立場に立たされる生徒は内容をよく吟味して読み取らなければ理解が深まらない可能性がある。また、筆者は終末部分において、スズメの減少を結論づけたが、減少したことからさらなる意見は述べていない。このことから学習の終末には、生徒が読者としてこれまでの検証を踏まえて自分の考えをもち、広げていく余地をもった教材と言える。

このように本教材は、事実と意見の読み分けや、要約することや要旨を捉えることを学び、自分のものの見方や考え方を広げることに適した説明的文章と言える。

(3) 指導観

本単元では説明的な文章の読解を行う。筆者は物事を科学的に検証する手順を、抑揚を押さえて文章に表現しており、筆者個人の強い主張や主題を示しているわけではない。しかし、文章の基底には筆者の科学に対する真摯な態度や考え方が流れている。そういった筆者のものの見方や考え方は構成や文末表現に醸し出されているだけで、文章中に明記されていない。まさにこの部分は「ウラ話」として生徒と推論していくべき部分である。文章表現や構成、複数の調査で一つの結論を導き出す論法を丁寧に読み取ることで、科学に対する筆者の考え方を生徒に読み取らせていきたい。

まず、単元の導入ではあとがきとはどのようなものかを示し、教材を読んであとがきを書くという言語活動を学習者が十分に理解し、学習の見通しをもてるようにする。

次に、文章から内容を読み取る。文章は「はじめ」「なか」「おわり」に分かれている。「なか」の部分には図表も示されており、要約した内容だけではなく文章と図表の関連からも「なか」はさらに3つに分かれていることを読み取ることができる。また、事実とそれを受けた筆者の意見とを区別する能力もここで求めたい。

そして、どうしてこのような文章表現になったのかについて生徒に考えさせ、筆者になりかわって文章のあとがきを書くことを通して、筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広げる学習活動を展開する。

4 単元の評価規準

① 国語への関心・意欲・態度	② 読む能力	③ 言語についての知識・理解・技能
・文章と図表との関連を捉えながら、よく吟味して文章を読もうとしている。	・文章の内容と図表の関連や事実と意見などを読み分けている。 ・目的に応じて文章を要約したり要旨を捉えたりしている。 ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くしている。	・文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。

5 単元の指導計画（5時間扱い）

時	学習内容・活動	◎おおむね満足できる生徒の姿 (観点：評価方法)	
第1次	1	・既習事項を振り返りながら、単元の学習計画を立てる。	◎読み取ったことをレポートにまとめる学習に関心を持ち、単元の学習課題を設定している。(①：観察)
	作者になりかわってあとがきを書こう		—ウラ話を明らかにせよ!—
第2次	2	・筆者が何のために、いくつの調査をしたのかをノートにまとめる。	◎目的に応じて文章を要約し、調査と段落を対応させて読み取っている。(②：ワークシート)
	3	・どのような調査内容だったのか、調査により分かったことと新たに出てきた問いは何だったのかについて、文章から読み取ってまとめる。	◎文章に表された事実と筆者の意見とを読み分け、分かったことと新たな問いについてノートにまとめている。(②③：ワークシート)
	4(本時)	・筆者がなぜこのような文章の書き方をしたのかを話し合う。	◎文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くしている。(②：ワークシート)
第3次	5	・あとがきを互いに読み合い、それぞれが捉えた筆者のものの見方や考え方について相互評価する。	◎書いたレポートを互いに読み合い、それぞれが捉えた筆者のものの見方や考え方について、相互に意見を交流させている。(②：ワークシート)

6 本時の指導

(1) 目標

- 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすることができる。(読むこと)

(2) 準備・資料

レポート, 学習の手引き

(3) 展開

	学習内容・活動	教師の支援(・)と評価(◎)
つかむ	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会団を中心に本時の流れについて確認する。 <p>筆者がなぜこのような文章の書き方をしたのかについて自分の考えをまとめよう</p> <p>〈文章の特徴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの検証を終えると、それを補完する次の検証を行っており、合計3回の検証が記されている。 ・自分の論の正当性を述べるのに慎重な姿勢で、飛躍したり、ひとりよがりにならないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の手引きや黒板掲示物を活用して、前時の学習内容や本時の学習内容を確認することで、見通しをもてるようにする。 ・前時までに読み取った文章の構成や表現の特徴を確認し、生徒が本時の目標に迫れるようにする。
考える	<p>2 パーソナルワークで「筆者がなぜこのような文章の書き方をしたのか」について考え、グループワークで話し合う。</p> <p>予想される話し合いの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして三つも調査を行ったのだろうか？ ・作者の疑問に対して、適切で長期的な調査が過去に行われていないから複数で補完する必要があったのではないか。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>T 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起させ、構成や文末表現に着目させながら筆者のものの見方や考え方について捉えられるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>T 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えが停滞している生徒やグループがあれば学習を深めるために、「どのような文章」を「どのように書いたのか」という視点を助言する。 ・次の活動が活発になるように、まとめた内容を簡潔に説明できるよう助言する。 </div> </div>
深める	<p>3 クラスワークで筆者がなぜこのような文章の書き方をしたのかを話し合う。</p> <p>予想される話し合いの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査というものは別の角度から見ると必ず反論が生まれるから、必要に迫られて付け加わっていった。 ・過去に遡る調査は、別の目的でまとめられたものを頼るしかないから完璧な物がないから。 ・ひとりよがりにならないように気をつけて書いたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会団を中心になるべく簡潔に意見を集約できるように、意見の分類をするように指示を出す。 ・異なる意見や異なる表現に触れる中で考えが深められるように助言することで、クラスで話し合った良さを全体で共有できるようにする。 ・各グループの意見が自分や自分のグループとどのように共通しているのかについて考えるように助言することで、生徒の考えが広がり、次の学習活動に円滑に取り組めるようにする。
まとめる	<p>4 パーソナルワークで筆者になりかわってあとがきを書く。</p> <p>予想されるあとがきの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学とは、一つ一つの調査を積み上げてやっとなんか一つのことを結論付けることができる根気のいる学問である。 ・どんなに実験を重ねて仮説を確かめても、ある仮説が正しいと証明することは絶対にできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持続できるようにするために、書いたあとがきは次時に交流することを伝える。 ・生徒の視点が読者から筆者に変わったことを意識させることで、あとがきの言語活動の学習効果を高められるようにする。 ・配慮が必要な生徒には筆者になりかわるとはということか、あとがきに書くべき内容は何かを再度確認し、学習が円滑に進むように支援する。
振り返る	<p>5 学習の手引きに本時の学習内容の振り返りを記入する。</p> <p>予想される振り返りの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の立場は科学者なので、いつも自分が慣れているのと違う文章の表現になったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くしている。(②: ワークシート) ・本時に学んだことや気が付いたことについて簡潔に記述するよう指示し、学習の定着ができるようにする。